

第2回 石川町部活動地域移行推進協議会 議事録

- 日 時 令和7年7月28日（月）午後6時30分～午後8時10分
- 場 所 石川町役場 委員会室
- 出席者 委員11名（欠席 1名）
事務局7名（教育長、教育課長、主幹兼課長補佐、学校管理係長、
生涯学習課長、スポーツ振興係長、スポーツ振興係主事）

- 議 事 (1) 今後の地域移行（地域展開）について（教育委員会から説明）
 - ・ 前回会議の振り返り
 - ・ 他団体、他市町村の取り組み状況
 - ・ 本町の地域移行（地域展開）の方向性(2) その他
 - ・ 第3回推進協議会について（次回は9月を予定）
(1)について、事務局から一括して説明
※委員の発言内容は次ページ以降に掲載

- その他

発言内容

会長

実証事業として、弦楽部が活動しているということで、担当の慶徳委員から、具体的な活動内容や、活動してみてもの課題をお話しいただきたい。

委員

月に1回、石川フィルハーモニックのメンバーが指導している。課題の1点目は活動場所である。顧問の先生が来ない前提だと、校舎は使えない。モトガッコやクリスタルホールを使用してきたが、楽器を持って移動する負担が大きい。課題の2点目は指導者の確保である。石川フィルハーモニックのメンバーは60歳以上が多いので、持続可能なものにしていくためには、若い年代に入ってほしい。

会長

指導者の選定はどのように行っているか。

委員

私がパートリーダーをお願いしている。

会長

外部の指導者が、休日に学校を使って部活動の指導を行う場合、どのような問題があるか。

委員

盗難の被害があったときや火災、地震等の災害があったときに、外部の指導者に責任を負わせることが難しい。

会長

事務局からの説明に対し、委員の皆さんから意見はあるか。

委員

ソフトテニス協会には、部活動指導員として平日の部活動の指導をしている者がいるので、休日の指導もしやすいが、休日のみ外部の者が指導するのは、子供たちの性格、人間関係等を把握できないので、難しいのではないかと。

また、協会員の高年齢化により継続できるかという課題と、送迎の問題で、やりたくても参加できない中学生も出てくるのではないかと課題があると思う。

委員

指導者の人材確保は大きな課題だと思う。指導者不足のなかで、誰でもいいという訳にはいかないと思うのだが、任用資格など指導するにあたり決まりはあるのか。

事務局

指導資格が必要なのか、経験の有無、どのような人物がよいのかなど決めていかなければならない。指導するにあたってどういう条件が必要なのか委員の皆様と協議して決めていきたいと考えている。

会長

指導者の人材確保が一番大事かと思う。人材の確保の方針や計画の案が必要ではないかと考える。人材確保しながら進めていく方向性であれば、指導者に求めら資格等や報酬などある程度示してもらえれば、委員も意見を言いやすい。事務局から案を出していただきたい。

委員

石川町のスポーツ少年団の事務局をやっているが、指導者は指導資格が必要である。スポーツ少年団の資格と、種目別の資格が必要で、資格がないと指導ができない決まりである。取得費用は2万円程度、更新費用は1万円程度かかる。石川町にはソフトボール、ミニバスケット、サッカー、剣道、柔道のスポーツ少年団あるが、費用が高額なので指導者はあまりいない状況である。指導者資格取得への補助を考えなければならない。

また、石川中学校の野球部の現状は、2年生が5名、1年生はゼロで、単独チームを組めない状況にある。石川郡内で軟式野球のクラブチームを作ろうという動きがあるが、中体連の大会には、クラブチームは参加できないという問題がある。部活動の地域移行のために受け皿を作っても、大会に出られなければ意味がないものになってしまうのではないか。

委員

野球部については、上位団体がどうするか決める仕組みなので、団体や県でどう話し合っているのかと思う。

委員

中体連のクラブチーム参加については、バレーボールは可能となっているので、競技種目によって違うのかと思う。

会長

野球については、現状、石川中学校単独で野球チームが作れないとすれば、地域に軟式野球クラブが立ち上げたとしたら、中体連に参加する場合は、クラブチームに所属するいくつかの中学校で合同チームとして大会に参加するしかない。

委員

地域クラブで活動し、大会に参加する時は合同チームとして参加することになる。

会長

日本、県中体連の出場規程や要望が決まっているので、その規定等が拡大されない限りは難しい。

委員

バレーボールやサッカーなど種目によって参加可否は違う。野球については、石川中、浅川中、鮫川中の合同チームとすることが決まった。ただ、年度ごとに状況は変わるので、状況によって決めていくものとなり、持続可能な形ではない。

会長

慶徳委員から、弦楽部の活動場所についての話があった。活動場所について思うことはあるか。

委員

他の事例で、外部指導者が入っても問題がないようにセキュリティを工夫した例がある。石川小のクリスタルホールは、セキュリティが校舎とは別になっていて、校舎に入らなくても利用することができる。お金はかかるが、施設の改修等も考えていかなければと思う。

委員

石川中の校舎もそういったことができればよいが、音楽室は4階の端にあるため、別の場所を活動場所とするのがよいのか、音楽室側のセキュリティを独立させる構造にするのがよいのか、選択に迫られる。体育館は校舎と別棟なので独立しているため、使用することは可能。

委員

活動場所は、基本は学校としているので、町で予算を確保して改修等するのが当然なのではないか。

有委員

本日の資料の中で、前期を令和8年度から10年度とし、中間評価、令和11から13年度を後期とあるが、令和13年度末には石川町としてはどういう形態にしたいのか。平日の部活動も地域に移行するのか最終的なところを示してほしい。競技種目によっては、指導資格がないと大会に出場できないや中体連に参加できない、クラブの合同チームは参加できないなどの問題がでてきている。まずは、土日の部活動を地域へは賛成だが、最終的にはどうしていきたいのか。指導者の確保、指導資格等の問題、指導者登録の方法は、地域スポーツクラブを立ち上げて、その中の指導者養成部門を設置し、取りまとめていければ把握しやすくなるのではないか。

会長

国の今後の考え方は、令和13年度には平日の部活動もすべて地域に移行するという考え方ということなのか。

事務局

当初から国は、平日の部活動も含めたかたちで地域へ移行するという考え方を示している。ただ、全国的に実証事業を実施し、国が示すような地域移行が困難な地域があることから、地域移行から地域展開に変わったと思う。平日・休日ともに、地域の実情にあった地域移行・地域展開について協議会のなかで考えていきたい。

会長

中学校の教員たちは、部活動地域移行に対して、どのように思っているのか。

委員

現時点での教員たちは、部活動を早く地域へ移したいと思っではない。今ある部活動を指導していくと思っはいるが、生徒数の減少により、教員数が減っていくことから顧問教員としての配置が困難になっていく。

委員

地域へ部活動が移行・展開されたら、教員の役割や関りはどうなるのか。

会長

学校に部活動がある限り、外部指導者が配置されたとしても、教員も配置されるということでもいいのか。

委員

外部指導者と顧問教員が配置されると、指導をどちらがするのかという課題がでてくる。指導によって違いがあると生徒は混乱する。これまで専門的な知識や技術のある教員にとっては、外部指導者へ移行しづらいなど、教員によっても進み方は違うのではないかと思う。

会長

外部指導者が決まったら、指導者を対象とした説明会や各種目ごとに教員顧問と話し合いながら、各々の役割を明確にしていく必要がある。

委員

合同チームとなると石川中学校以外の生徒もいるので、指導者の要件を定めて確保したとしても、大会に出場できるのかなどの課題が出てくると思う。

委員

現在、3種目に部活動指導員が配置されているが、顧問教員等と外部指導者間で主をどちらにするかなど、役割については始める前に年度ごとに双方が共通認識を図るためにも打合せは行っている。

会長

先行事例ができそうな意見があつたが、現在、学校には町から部活動指導員を3名配置している。この体制をいつまで実施していくのか、人数を増やすのか、それとも部活動指導員ではなく、外部指導者として配置していくのか、外部指導者となると保険や報酬等はどうするのかなど具体的なところを今後は、示してほしい。